

第113回：漢詩…乃木大将と井伏鱒二

どこの会社にも必ずいるだろう、大幹部だが誰にでも笑顔で接し、気さくに「ポン」と肩を叩く調子のいい人が、このニコポン幹部のルーツは桂太郎だという。桂太郎といえば日露戦争を勝利に導いた総理大臣で、戦後は元老として明治の政界を仕切った大政治家である。軍人として陸軍大将まで昇り詰めた人物だが、彼の明るい性格は政治家に向いていたようで、日露戦争が始まるとその愛嬌と周囲への配慮や気配りの才を遺憾なく発揮し、小うるさい伊藤博文、山縣有朋の元老や、山本権兵衛、小村寿太郎といった豪傑たちの間をうまく取り持ち、戦争を勝利に導いた。満面の笑みとニコポンで政界を泳ぎ廻る桂を「サーベルを吊った幫間」だと揶揄する声もあったようだが、本人は全く意に介さなかったという。政治家は結果が全てであり、幫間だろうが腰巾着だろうが、戦争に勝てばそれでよいのだが、当時そんな桂太郎を毛嫌いしていたのが、同じ長州人でもスタイルと様式美に固執する乃木希典だったという。

乃木大将が気の毒なのは、長州出身というだけの理由でエリートコースを歩まされ、それが一連の悲劇を招いたことにある。「ホメ殺し」の不幸というやつだ。彼は陸軍設立間もない明治4年に少佐で任官する。当時陸軍は西郷大将、山縣中将、大山少将、桐野少将といった薩長閥中心で構成されており、佐官や尉官も同じルールで抜擢された。その青年将校の筆頭格が乃木である。後年日露戦争を共に戦った将官のなかで、なぜ乃木だけが佐官で任用され、桂太郎、黒木為楨、奥保鞏たちの尉官組より上位となったかといえば、彼は長州本家でかつ吉田松陰の系譜に列なる出身だからである。児玉源太郎も長州人だが、児玉は傍流徳山長州藩出身のため、気の毒に伍長で任官する。

乃木の軍歴は暗い。西南戦争では軍旗を奪われ、軍司令官として臨んだ旅順攻防戦では二百三高地で2万人近い犠牲者を出した。軍人としての能力不足は本人が最も理解していたようで、若い頃はストレスを発散させるため、紅灯の巷に出没しては浴びるように酒を呑んだ。乃木日記によると結婚翌年の明治12年5月の飲酒回数は28日、6月以降が33日、31日、37日、34日、28日と続くから凄まじい。連日、柳橋や新橋をハシゴし、日記の表現を借りると、小酌、小宴、大酔、盛宴、酩酊、酔倒を繰り返していたようだ。

酒で憂さが晴らせるうちは良いが、ストレスが嵩じて行き詰ると、彼には職場離脱しか逃げ場がなかった。彼は長い軍人生活のなかで、自ら請願して四度も休職している。理由は上官への不満、台湾総督としての失政、部下の経済疑惑による引責と様々だが、こんなナイーブな人物に軍人が向くわけがない。しかし藩閥が彼に軍務継続を強要する。山縣有朋が薩長のバランスを保つための駒として彼を必要としたのである。日露戦争が始まると、山縣は前線司令官にも長州人を送り込みたいと考え、四司令官の内、薩摩から野津と黒木、藩閥外から奥が選ばれると、残る一人に乃木を送り込む。当時、長州人で年齢と健康条件に問題ない現役大将クラスは乃木しかいなかったのである。この選抜が旅順の悲劇を招く。

乃木は軍人としては無能であったが、当代一級の文化人であり、また彼の高潔な精神と、無私の忠誠心が、戦争で二児を失った悲劇的な境遇とも重なり、明治天皇をはじめとする多くの人に愛され慕われた。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

日露戦争に従軍した軍人で、詩歌の第一人者は乃木大将だろう。因みに文章力では第二軍軍医部長の森林太郎(少将相当)しかいない。「もりばやし・たろう」ではない、彼のペンネームは森鷗外である。

次の漢詩は乃木が第三軍司令官として、金州湾に上陸したとき、金州・南山の激戦を悼み、前月この地で戦没した長男に想いを馳せて読んだ絶句である。中国人も絶賛する名詩だが、読んで辛くなる。辛い戦争だからこそ希望を託す詩歌をつくる人もいるのだが、彼の作品は彼の人生の投影そのものである。

山川草木転荒涼 十里風腥新戰場 山川草木うたた荒涼、十里風腥(なまぐさ)し新戰場
征馬不前人不語 金州城外立斜陽 征馬前(すす)まず人語らず、金州城外斜陽に立つ

漢詩の楽しみ方は人夫々で、乃木のように自ら作賦する人は少数、大半は唐詩や宋詞の鑑賞だ。そんななかで文豪井伏鱒二先生は自己流の翻訳を試みている。泉下の李白先生が口から酒を吹いて怒るかもしれないが、なに構う事はない、著作権はとっくに切れている。むかしの作品を杓子定規に読むこともなかろう。例えば唐の詩人高適(こうせき)の「田家春望」。下の(A)が本文、(B)が正統派の読み下し文、そして(C)が井伏鱒二の翻訳詩である(井伏訳はカタカナ表記だが、これを漢字に改めた)

(A)	(B)	(C)
出門何所見	門を出でて何の見る所ぞ	うちを出てみりや、あてどもないが
春色満平蕪	春色平蕪に満つ	正月気分がどこにも見えた
可歎無知己	歎ずべし知己なきを	ところが会いたい人もなく
高陽一酒徒	高陽の一酒徒	阿佐ヶ谷あたりで大酒飲んだ

太宰治が好んで用いた「さよならだけが人生だ」は、晩唐の干武陵「勸酒」の井伏バージョンに由来する。

勸君金屈卮、満酌不須辞、花発多風雨、人生足別離
コノサカヅキヲ受ケテクレ、ドウゾナミナミツガシテオクレ
ハナニアラシノタトヘモアルゾ、「サヨナラ」ダケガ人生ダ

漢詩に酒宴はつきものであり、主題は「哀」でも「歡」でも良いが、紹興酒の馥郁たる香りを損ねる重苦しい詩歌はやや苦手である。乃木大将の漢詩は中国人も認める珠玉の作品揃いだが、前掲「金州城外の作」や、「爾靈山嶮豈難攀・・・」で始まる二百三高地の賦を聞くと、杯を下ろして黙禱せざるを得ないので、漢詩朗詠には不向きだろう。佳品と知りつつ、敬して之を遠ざくである・・・正直なところ。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年4月2日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075% (税込み) (約定代金が260,869円以下の場合、3,150円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20% (税込み) (約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。